

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 4 月 30 日現在

機関番号：16201

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2021

課題番号：19K23077

研究課題名(和文) 平安時代の歌集及び『源氏物語』の贈答歌についての研究

研究課題名(英文) Research of Zoutouka of Heian Kasyu and Genji Monogatari

研究代表者

北原 圭一郎 (Kitahara, Keiichirou)

香川大学・教育学部・准教授

研究者番号：50848471

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：第1に、平安時代の勅撰集の贈答歌を対象として、贈歌・返歌の掛け合いの法則性について調査した。贈歌の表現自体から反発の契機を導き出すという高度な形式が、特に『古今和歌集』に見られること、それが『後撰和歌集』の贈答歌にも一部引き継がれていることなどを明らかにした。第2に、『源氏物語』の贈答歌が、物語中の人物関係を効果的に描写する方法としてどのように利用されているかについて調査した。『源氏物語』においては、人物や状況に応じて贈答歌の表現や返歌の詠み方が意識的に描き分けられており、贈答歌にはそれまでに描かれてきた男女の関係を集約的に語り直す方法があることなどを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『源氏物語』は、日本古典文学の中でも最高傑作の1つであり、一般読者からの人気も高く、国語教育においても主要な教材となっている作品である。本研究では、この作品を読み解く方法として、人物同士で交わされる贈答歌に注目した。『源氏物語』中では多数の人物間で贈答歌が交わされるが、それは単に同時代の習俗の反映ではなく、特定の人物関係を印象的に描き直す手段や、光源氏と多数の女君たちとの関係を描き分ける手段となっていることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：First, I investigated the rules of Zoutouka, targeting the Zoutouka of the Heian Chokusen Wakasyu. It is clarified that the advanced form of deriving the opportunity of repulsion from the expression of the Zouka itself is seen especially in "Kokinwakasyu", and that it is partly inherited in the Zoutouka of "Gosenwakasyu". Second, I investigated how the Zoutouka of "Genji Monogatari" is used as a way to effectively describe the relationships between people in the story. In "Genji Monogatari", the expression of the Zoutouka and the way of singing the Touka are consciously drawn according to the person and the situation, and the relationship between men and women that has been drawn up to that point is intensively drawn in the Zoutouka.

研究分野：平安時代の物語と和歌

キーワード：源氏物語 贈答歌 古今和歌集 後撰和歌集 伊勢物語

1. 研究開始当初の背景

『源氏物語』には、2人の人物間で詠み交わされる贈答歌が多数描かれている。このように作中人物たちが贈答歌を詠み交わすのは、一面においては、平安貴族社会で日常的に和歌が社交手段として用いられていたことの反映であると考えられる。しかし実際の習俗そのままの反映ではなく、物語中の人物関係や場面を効果的に描写する方法として利用されている側面もあり、その虚構の方法とはどのようなものを明らかにすることで、この物語をより豊かに読み解くことができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

第1に、平安時代における贈答歌の実態、特に返歌が贈歌に応じる際の発想について明らかにすること。第2に、その贈答歌の実態を踏まえて『源氏物語』の贈答歌の方法について明らかにすること。

3. 研究の方法

第1の平安時代における贈答歌の実態については、『源氏物語』と同時代の勅撰和歌集を取り上げ、返歌が贈歌と同じ表現に基づきつつ反発する内容をどのように導き出しているかという点から分析し、各歌集における贈答歌の採録基準の差異と作為性について明らかにした。第2の『源氏物語』の贈答歌の方法については、紫の上など特定の人物の贈答歌に注目する方法、後朝歌など特定の詠歌状況に注目する方法で、各場面における贈答歌の役割について明らかにした。

4. 研究成果

(1) 『源氏物語』と同時代の勅撰和歌集の贈答歌について

「『古今集』『後撰集』の贈答歌の方法 贈答歌採録基準の差異を中心に」(『国語と国文学』96-10、2019年10月)では、贈歌・返歌における直接の共有表現だけでなく、返歌が贈歌と同じ表現に基づきつつ反発する内容をどのように導き出しているか、という新たな視点から『古今集』と『後撰集』の贈答歌を分析することで、それぞれの歌集が採録している贈答歌の性格とその差異を明らかにした。『古今集』には、贈歌の表現自体が持つ連想・多義性を利用して意味や用法などを転換することで反発の契機を導き出すという、高度な形式の贈答歌が多いこと、『後撰集』には、『古今集』と同じ傾向の贈答歌に加えて、贈歌の表現の大部分を贈歌と同じ意味でそのまま繰り返して用いるという、初期万葉以来の原初的な形式の贈答歌が多いことなどを示した。

(2) 『源氏物語』における贈答歌の描き分け

「『源氏物語』の贈答歌における返歌の方法について」(『日本文学研究ジャーナル』17、2021年3月)では、最初に『源氏物語』が人物や状況に応じて返歌の詠み方を意識的に描き分けしていることを、返歌に対する評価及び返歌をする際の作為的意識が返歌の巧拙と対応する例を通じて確認した。その上で、技巧的な返歌がとりわけ連続する箇所として若紫巻の光源氏と尼君との贈答歌を挙げ、それが求婚の真の意図を理解できない尼君が礼儀を保ちつつ光源氏の申し出をやり過ごすための苦心の策であると同時に、紫の上引き取りを先延ばしにする展開を支える意義を担っていることを論じた。

(3) 『源氏物語』の特定の人物同士の贈答歌

「若菜上巻の紫の上 光源氏との贈答歌を中心に」(『香川大学国文研究』44、2019年9月)では、婚儀三日目と女三の宮との対面前の、紫の上が書きつけた一首に光源氏が後から返歌する形式の贈答歌が描かれる二つの場面に焦点を当て、女三の宮降嫁以後の紫の上の内面や光源氏との関係性の変遷を明らかにした。まず贈答歌の形態の点では、男女対座の場での書くことによる間接的な贈答歌からより孤立した手習歌へという変化が見られ、両者の隔たりの広がりや反映されていることを論じた。また紫の上の和歌の表現に関しては、一首目は不安定な光源氏との仲をあてにしていた自己への後悔、二首目はそれに加えて愛情の衰えへの予感を語っており、地の文で語られる紫の上の内面に対応しつつ、紫の上の苦悩の深まりを表していることを論じた。

(4) 『源氏物語』の特定の詠歌状況における贈答歌

「『源氏物語』における詠歌場面の類型 後朝の贈答歌をめぐる」(『香川大学国文研究』45、2021年9月)では、『源氏物語』内で繰り返し贈答歌が詠まれる場面の類型の例として、男女が一夜を共に過ごした翌朝に直接詠み交わす贈答歌(「後朝の別れの歌」)を取り上げ、その機能や表現的特徴を考察した。『源氏物語』には、平安前期物語に比べ格段に多数の「後朝の別れの歌」が描かれているが、別れを嘆き愛情を確認し合うような定型的な詠み方とは異なっており、それぞれの男女関係に固有の内容を詠み込むことで各関係を差異化する方法がうかがえること、

対照的な「後朝の別れの歌」を連続して描くことで一方を際立たせる場合があることなどを論じた。

(5)『源氏物語』の贈答歌の方法的先蹤

「『伊勢物語』六十九段論 斎宮の人物造型を中心に」(『香川大学国文研究』45、2020年9月)では、禁忌を犯す女の内面について、主に和歌・短連歌の表現に注目して検討し直すことで、男に対する思慕や未練と同時に、斎宮という立場ゆえの自制やそれ以上の関係を求められない複雑な感情も読み取れることを指摘し、葛藤する女性人物の心情を和歌によって描き出す方法が、とりわけ六九段に特徴的に見られる達成であることを論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 北原圭一郎	4. 巻 46
2. 論文標題 『源氏物語』における詠歌場面の類型 後朝の贈答歌をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 香川大学国文研究	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北原圭一郎	4. 巻 17
2. 論文標題 『源氏物語』の贈答歌における返歌の方法について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 99 - 111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北原圭一郎	4. 巻 45
2. 論文標題 『伊勢物語』六十九段論 斎宮の人物造型を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 香川大学国文研究	6. 最初と最後の頁 26 - 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北原圭一郎	4. 巻 96-10
2. 論文標題 『古今集』『後撰集』の贈答歌の方法 贈答歌採録基準の差異を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 19 - 34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原圭一郎	4. 巻 44
2. 論文標題 若菜上巻の紫の上 光源氏との贈答歌を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 香川大学国文研究	6. 最初と最後の頁 1 - 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北原圭一郎	4. 巻 1
2. 論文標題 兵部卿宮と光源氏 賢木巻を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新たなる平安文学研究	6. 最初と最後の頁 105-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------